上川井だより 6月号

平成２９年　５月３１日
横浜市立上川井小学校
校　長　山田　アイ子

「上小オリンピックから見えた　上川井小の子どもたちの姿」

副校長　　山本　美和

運動会がいよいよ近づいてきたところで、雨模様の日が多くなりましたが、当日はすがすがしい五月晴れの中、第４９回運動会「上小オリンピック」を無事に行うことができました。

４月より着任して、2か月が経ちました。私が着任した後、間もなく上小オリンピックの準備が始まりました。準備・練習期間に私が目にした子どもたちの様子や、教職員からの話、また、当日の様子から、上小の子どもたちの良さをたくさん見ることができました。それは、大きく２つに分けられます。

一つめは、「今、何をすべきか判断してすすんで行動できる」ことです。５．６年生の子どもたちは、運動会に向けて全員が「実行委員」「たてわり競技」「応援団」のどれかに属して、活動しました。それぞれが、思いをもって真剣に話し合っていました。また、全校競技の練習や、応援練習では教師が声かけをしなくても、一人ひとりが集中して真剣に取り組む姿がありました。休み時間になると、リレーの練習も加わり、５・６年生は特に忙しくなりましたが、学校生活を支える飼育委員会や放送委員会など、普段の委員会活動にも自覚をもって、しっかりとやっていました。

二つめは、「かかわり合いやつながりの中で学び、成長している」ことです。低学年の演技　「えがお 100%！キッズソーラン」では、休み時間に下級生がすすんで３年生に教えてもらっていました。一方、３年生は、自分たちが今年、最後の低学年の演技だから、下級生にしっかり伝えようという思いをもって取り組んでいました。また、高学年の「The　上小魂　2017」でも、休み時間に声を掛け合いながら自主的に練習をしていました。リレーや応援団の練習でも、上級生と下級生、また同学年とのかかわりの中で、さらに良いものにしようと練習に励んでいました。

志水宏吉・若槻健（編）「つながりを生かした学校づくり」（東洋館出版社）の中に『「集団づくり」の究極の目的は、子どもたちの自然な「つながり」がヒューマニズムに満ちた温かい「つながり」になることである。また、そんなぬくもりのある「つながり」を経験した児童が、大人になっても他者を尊重し、人と人との「つながり」のなかで生きていくこと、自分からそのような「つながり」をつくっていける人間として育ちゆくことである』とあります。上小の子どもたちにとっては、かかわること・つながることは、すでに日常です。とても、素敵なことだと思います。

上小オリンピックは、このような積み重ねがあって、どの競技・演技も、それまでの練習の成果を十分発揮し、スローガン「だすぞ！！自分たちの最高の力」は、全校 136 人が達成し、思い出も共有することができました。今年は、赤組が優勝しましたが、お互い力を出し尽くした結果に赤組はもちろん、白組の子どもたちのさわやかな笑顔も印象的でした。大きな行事を、達成感一杯で終えることができました。

最後になりましたが、子どもたちの演技・競技に惜しみない拍手や声援をありがとうございました。準備・後片付けなど、保護者の皆様、地域の皆様のご支援とご協力にも感謝申し上げます。これからも、本校の子どもたちの良さを認め、自己有用感をもって学校生活が送れるように支えていきたいと思います。